

2019年度(令和元年度)学校評価自己評価表

一ツ橋中学校区	校番 25	福山市立一ツ橋中学校
最終更新日	2020年(令和2年)2月25日	

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 校区の「めざす子ども像の実現に向け、小中が連携して取り組んでいることがよく分かった。年々、児童生徒の授業態度がよくなっており、継続して取り組みを続けてほしい。	児童生徒の現状 小中一貫教育推進デザインや乗入授業、クリーンアップ一ツ橋等の取り組みにより、中学校生活を意識した言動をする児童が増えている。反面、小学校の不登校児童が中学校に入学しても不登校の状態にあり、指導に苦慮する現状もある。授業改善により授業が面白いと感じる児童生徒は増加傾向している。	育成する力 21世紀型“スキル&倫理観” めざす子ども像(義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	「課題解決力」「論理的な思考力」「主体性・積極性」「コミュニケーション力」 ・自分にあった課題が設定でき、解決過程での体験や結果を生活や学習に生かしている。 ・根拠を明らかにし、筋道を立てて考えながら、過程や結果をまとめたり、説明したりすることができる。 ・さまざまな集団の中で、自己の役割を意識し、積極的に活動しようとしている。 ・友達との交流を大切にし、相手の話をよく聞いたり、考えを受け止めたりして、お互いの存在や立場を尊重しようとしている。 一ツ橋中学校区小中一貫教育推進デザインを基盤とした取り組みにより「知・徳・体」の育成をめざす。 小中合同行事と小中合同の「自ら考え学ぶ授業」を実践するための研究授業を通して、全ての児童生徒が主体的に学ぶことができる学校をめざす。
--	---	---	---

III 自校

ミッション 燃えたぎる一ツ橋中魂(心に太陽・情熱と躍動)で、大地を踏まえ大空に向かって羽ばたく人間の育成	育成する力 21世紀型“スキル&倫理観”	「課題解決力」	「論理的な思考力」	「主体性・積極性」	「コミュニケーション力」	
学校教育目標 自ら輝く、ともに輝く	めざす子ども像	中期	自分にあった課題が設定でき、その課題を解決しようとしている	根拠を明らかにし、筋道を立てて考えることができる	学級の集団の中で、自己の役割を意識し、積極的に活動しようとしている	友達との交流を大切にし、相手の話を聞いたり、考えを受け止めたりしている
現状 <児童生徒> 授業改善等の取組により、授業が分かると感じる生徒は約94.3%にのぼるが、思考力・判断力・表現力を問う定期テストの正答率は約35.3%にとどまっており、読解力の育成に課題がある。また、家庭学習を毎日1時間実施している生徒の割合が目標値に達しておらず、生徒に自主的・自発的な学習活動を促す取り組みや生活リズムの徹底の継続した指導が必要である。 <授業> 教えて考えさせる授業の取組により、生徒が「自ら考える場面」等を授業展開の中で設定した結果、授業が分かるという生徒が94.3%にのぼっている。反面、定期テストの思考力・判断力を問う問題の正答率は伸び悩んでおり、授業を「学び」へと高める必要がある。		後期	自分にあった課題が設定でき、解決過程での体験や結果を生活や学習に生かしている	根拠を明らかにし、筋道を立てて考えながら、過程や結果をまとめたり、説明したりすることができる	さまざまな集団の中で、自己の役割を意識し、積極的に活動しようとしている	友達との交流を大切にし、相手の話をよく聞いたり、考えを受け止めたりして、お互いの存在や立場を尊重しようとしている
	研究	教科等 主題・内容等	総合的な学習の時間 教師が教え込む授業から、「子どもたちが自ら考え学ぶ授業」への転換～生徒が主役になる授業づくりを通して～			
	めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が big question に真剣に向き合い、自ら問いを見だし深めようとしている。 生徒が仲間や教師との対話を通して、学習内容を深めようとしている。 教室にいる生徒全員が主体的に学習に取り組んでいる。 生徒に真剣な表情と笑顔がある。 教師がファシリテーター的な役割を果たしている。 				

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立一ツ橋中学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
2	自ら考え学ぶ授業の推進 (定期テストにおける思考力・判断力を問う問題の正解率60%以上)	★	継続	・生徒アンケート「授業の中で、自分の意見や考えをまとめたり、発表したり、書いたりする場面がある」の肯定的解答90%以上の教科が30 / 30	・単元あるいはコマの授業にbig questionを設定し、生徒と共に取り組む。	・学期ごとの生徒アンケートの実施	■定期テストにおける思考力・判断力を問う問題の正解率30.2% ■「授業の中で、自分の意見や考えをまとめたり、発表したり、書いたりする場面がある」の肯定的解答90%以上の教科が15 / 30	3	2	・研修等において、授業改善や定期テストの問題交流を取扱い、教員間で情報を共有する。 ・ホワイトボード等を積極的に活用し、意見交流の場を授業内に増やす。そのための課題設定を工夫する。	■定期テストにおける思考力・判断力を問う問題の正解率31.5%。 ■「授業の中で、自分の意見や考えをまとめたり、発表したり、書いたりする場面がある」の肯定的解答90%以上の教科が15 / 30。	3	2	2	・課題発見、解決学習を引き続き積極的に書く授業において実施していく。 ・授業交流や研修において「生徒を主役にする」という視点で研究・協議を行う。
2	高まり合う学校・学級集団の育成(学校が楽しいと思う生徒を90%以上に)	★	継続	・総合ポイント制度に関わる取組項目を学期に6項目以上実施	・生徒会執行部がワンカップを主宰し実施する。	・毎学期生徒アンケートの実施 ・全教員年間10枚以上グッド&ナイスカード配布	□1学期、総合ポイント制度に関わる取組、12項目実施。 ■「学校が楽しい」と感じている生徒86.1% ■グッド&ナイスカードの活用を更に進める。	4	3	・新しく縦割での項目を追加し、学年間を越えた繋がりを意識させ、評価する。 ・生徒会執行部に改めてカードの意味や取組を説明させ、意識を高める。	□2学期、総合ポイント制度に関わる取組、13項目実施。 □「学校が楽しい」と感じている生徒90.6%。 □新入生説明会にて、生徒会に学校紹介でカードの説明を実施した。	3	4	4	・総合ポイント制度の縦割で取組める項目を考える。 ・生徒会を中心に総合ポイント制度やグッド&ナイスカードの意義を説明する機会を学期ごとに設ける。
6	意欲を高める健康・体力づくりの推進(新体力テストで県平均以上の種目を60%(28/48)以上に)	★	継続	・新体力テストで国・県平均以上の項目数を48項目中28項目以上	・体育、部活動で補強運動を実施する。 ・早寝、早起き、運動を実施する。	・部活動満足度アンケートの実施 ・学期に1回の「早寝・早起き」の調査	□補強運動の工夫、効率的な実施は100%行うことができた。 □調査の実施と生徒会の呼びかけは100%実施することができた。	3	3	・生徒の実態把握と天候や気温等の関連を考え、内容を工夫する。 ・継続的な実施と保護者への喚起も実施する。	□平均以上の項目は25項目。50m走や立ち幅跳びは男女とも低い種目を伸ばすことができた。 □生徒会活動を通して継続的に取り組むことができた。	3	3	2	・体育の補強運動の内容改善や、部活動での共通した冬季トレーニングを実施し、スピードや全身持久力、また体幹のトレーニングを実施する。

2	教職員の資質と指導力の向上(生徒アンケート「授業が分かる」が85%以上)	★	継続	<ul style="list-style-type: none"> 教師アンケート「生徒の多様な考えを引き出す工夫をしている」の肯定的解答 85%以上 時間外勤務月60時間以内 	<ul style="list-style-type: none"> 学びづくり案に基づく研究授業を全教員年間1回以上実施 毎週定時退校日を設定 	<ul style="list-style-type: none"> 学期ごとの教職員・生徒アンケートの実施 入退校時間記録 	<ul style="list-style-type: none"> 口生徒アンケートでは、授業の中で「自分の意見や考えを書いたり述べたりする場面がある」の項目が、全体で今回初めて90%を越え、授業者の授業改善が明らかである。 口4月～9月の時間外勤務時間 60時間以内。 	3	4	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で課題解決型学習を行う予定の単元については、計画やねらい、方法を明確にして確実に実施し、「主体的な学び」のあり方を追求していく。 在校等時間記録票を活用して計画的に用務を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 口2学期は全教科の21単元のどこかの時間で「課題解決型学習」を行った。「考えることが面白い」の肯定的回答も88%であった。 口時間外勤務月60時間以内を達成することができた。 	3	3	4	<ul style="list-style-type: none"> 生徒を主役とする授業づくりや学級経営について、年度末の「学びづくり研修」を通して振り返る。 時間外勤務45時間以内に向けてまとめた、教育課程の見直しを実行する。
6	保護者・地域への積極的な学校情報の発信(本校に通わせてよかったと思う保護者を90%以上に)		継続	<ul style="list-style-type: none"> 校内外のボランティアへ参加した生徒80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 地域行事、地域ボランティア等における生徒の活躍を広報する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期ごとの生徒、教職員及び保護者アンケートの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 口本校へ通わせてよかったと思う保護者97.4% ■ボランティア参加生徒26.2% 口学校・学年だより等での紹介を継続する。 	3	4	<ul style="list-style-type: none"> 教職員が生徒の頑張りを肯定的に評価する。 学活の時間等において、生徒相互の肯定的な評価活動を更に進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 口本校へ通わせてよかったと思う保護者97.0%。 口校内外のボランティアへ参加した生徒は80.0%以上。 	3	3	4	<ul style="list-style-type: none"> 学校・学年だよりに加え、インターネットを活用してホームページやメール配信システムで生徒の頑張りを伝える。 継続してPTAでもボランティア活動への参加を呼びかける。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。